

## 平成30年度エイズ予防財団助成事業実績報告書

実施団体	IFMSA-Japan SCORA(国際医学生連盟 日本 性と生殖・AIDSに関する委員会)	
実施事業名	STI Prevention Project	
団体代表者	IFMSA-Japan代表 田浦拓弥(平成31年度) 笠井俊佑(平成30年度) SCORA代表 久世瑞穂(平成31年度) 荒川智哉(平成30年度)	
事業の目的	<p>未来の医療者である医療系学生に対して、HIV/AIDSをはじめとするSTIについて、その社会的背景や患者の抱える問題なども含めた正しい(教科書的ではなく、経験に基づく)知識を身につけ、考える機会を提供する。また、自分達自身がSTIの主要な罹患年代である若年層の一員として、HIV/AIDSをはじめとするSTIの予防について学び、周囲の同じ若年層の友人達へ向けて啓発活動を行うとともに、自身でも予防活動を実践する。</p>	
事業の達成度	<p>今年度の活動を通してSTIに関する知識を身につけ、実際にSTIに感染した時にどのように行動するかを考えるワークショップを行った。ワークショップ後に実施したアンケートでは、「それぞれのSTIの違いについて正しく知ることができて大変勉強になった」「突然自分がSTIに感染していることがわかったらパニックになってしまうと思うので、ワークショップを通じて体験出来て良かった」などの感想が得られた。また、STI総会で実施したSTIカルタについての感想では「座学やただ話を聞いているだけよりも内容が頭に入った」という感想が得られた。また、実際にSTI検査を受けた仲間の検査体験談を聞く、という企画では「友達の話を聞いて他人事じゃないな、と思った」「意外と検査はハードルが高くないことがわかった」「自分も検査に行ってみようと思った」など、自分たち自身がSTIの主要な罹患年代である自覚が芽生えた感想も見受けられた。</p> <p>これらのアンケート結果から、本事業を通してSTIの知識を身につけ、周囲の同世代の人々に対して有用な啓発活動を実施できたと考えられる。しかし、今回対象となった学生は主に医療系学生であり、人数も多いとは言えないものである。そのため、今後対象を拡大しさらに多くの若者にSTIについて考えてもらうための活動を続ける必要があると考えられる。</p>	
事業実績	対象となった人数(実質)	<p>夏休みSTI早期発見キャンペーン(2018年8月～9月):参加人数34名 第37回日本思春期学会総会・学術集会口頭発表(2018年8月):関係者多数 STI総会(2018年10月):参加人数37名 第16回日本総会Activities Fair(2018年11月):対象人数350名 世界エイズデーオンラインキャンペーン(2018年12月):一般多数 SCORA総会(2019年3月):参加者40名</p>
	具体的な活動内容	<p>1. 夏休みSTI早期発見キャンペーン(2018年8月～9月、全国) 今年度は2017年度に実施した「実際に検査に行ってみる」ということ以外に自分が住む街の保健所で地域で流行している性感染症について何う活動も実施した。このイベント以前から性感染症に興味のあり、地域の保健所でお話を伺った参加者からは、自分の地域にはどんな特徴があり、それゆえにこのような性感染症が特に流行している、というのは自分たちだけで調べようとしてもなかなか分からないことなので聞く機会が持ててよかった、という感想を聞くことができた。また、今回性感染症検査に行くことの次の目的として、「自分の検査体験を他者に話す」という目的を設けた。これは、「性感染症は他人事。自分は絶対にかからない。だから検査も必要ない。」と思う現代の若者達に対してのアプローチとして実施した。このように考えている人にはまず性感染症が「他人事ではなく自分事」であることを認識してもらう必要がある。そのために、実際に検査を体験した友人や同世代の話を聞くことは有効である。実際に10月のSTI総会でこれを実施してみたところ、「友達から性感染症検査の話を知ったら、自分も行ったほうがいいかもしれないとおもった」「検査への敷居が下がった」などという感想が得られた。我々大学生のみから構成される団体であるという特徴を活かした活動となった。</p>

2. 第37回日本思春期学会総会・学術集会口頭発表(2018年8月16日、東京)  
今年度はOGの先生からの誘いもあり、第37回日本思春期学会総会・学術集会にて前年度から製作・使用しているSTIカルタ(後述)について口頭発表を行った。演題は『性感染症についての知識を楽しく身に付ける「STIカルタ」の作成と実施』。日ごろの活動では大学生同士の交流が主であり、実際に臨床の現場に立たれている医師や看護師の方々に私たちの活動やSTIカルタについてご意見をいただくことができた。我々の活動を医療分野、教育分野の先生方という第三者から見ていただくことで、活動の精度を上げ、さらに新しい活動の発案にもつながった。

3. AIDS文化フォーラム名古屋トークセッション登壇・ブース出展(2018年9月2日、名古屋)  
名古屋市鯉城ホールで行われたAIDS文化フォーラムでは「コンドームの達人」として知られる泌尿器科医・岩室紳也先生と日本薬学生連盟(APS-Japan)に所属する大学生とともにトークセッションを行った。タイトルを「勘違いはもうやめよう～HIV/AIDSについて知って見えてくるもの～」とし、HIV/AIDSにまつわる誤解とその解決方法について話し合った。また会場の外ではブースを設置し当日来場された一般市民の方を対象にSTIクイズカルタ、Peer EducationをはじめとするSCORAの活動について説明した。

4. STI総会(2018年10月6日、札幌)  
STI総会ではSTIに関するワークショップや、①のキャンペーンで体験した性感染症体験について語り合った。特に、「自分が性感染症にかかったら」という状況を想定したワークショップでは、得られるものが多くあった。HIVや梅毒、クラミジアなどに感染したことを想定し、こんな症状が出ました、あなたはどうしますか？との問いかけを投げかけ、参加者とどのようなアクションをとるか考えた。このワークショップの結果、「女性は性感染症にかかったら婦人科にいけばいいとわかってはいたけれど、男性に症状が出た時、何科に行ったらいいかわからなかった。」「治療を行うことよりも、パートナーにどんなふうに説明して、検査に行ってもらうように誘導するか考えるのが大変だった。」など、性感染症そのものだけでなく、「性感染症にかかったらどうしたらいいのか、何をすべきなのか」ということが若者にとって必要な知識であることを学ぶことができた。

5. 世界エイズデーオンラインキャンペーン(2018年12月1日～5日、オンライン)  
12月1日のWorld AIDS Day(以下、WAD)に合わせて、2018年12月1日から12月5日にかけて、オンラインにてキャンペーンを実施した。今年度は弊団体のInstagramアカウントを利用した。Instagramを利用したのは「性感染症に興味のない人にもインパクトある画像で足を止めて記事を読んでもらいたい。」という思いがあったためである。Instagramは画像がメインのコンテンツであり、タイムラインなども画像が大きく表示される仕様である。これを利用し、インパクトある画像を投稿することで、画像と一緒に投稿した文章を読んでもらい、個人に興味を持ってもらうことができる。今回は「World AIDS Dayって知っていますか?」「HIV感染=AIDSではありません」「HIVは握手で移るでしょうか」「HIV早期発見は保健所の無料検査で」という4つのテーマを掲げて投稿を行った。結果として、団体には関係のない一般の人から反応を貰えるなど、効果が確認できた。

6. STIカルタ追加製作(2019年2月、全国)  
私達は昨年度、医療系学生が競い合いながら、仲間と共に楽しくSTIについての知識を身につけることができるよう、STIに関する知識を学ぶことができる「STIクイズかるた」を製作した。初回に製作したSTIカルタは17種類しかなく、また性感染症として一般的に知られているHIV/AIDSに関するものが少なく、治療薬について問うような専門的なものがあるなど、偏りが多くあった。そのため今年度は思春期学会で泌尿器科や産婦人科の先生方にアドバイスをいただき、STI総会にてこのアドバイスを踏まえて新しいカルタの内容について参加者を交えて考えた。このSTIカルタは、弊団体の別プロジェクトであるPeer Education Projectにての活用を考えている。このPeer Education Projectでは、我々医療系学生から中高生に向けての性教育(以下、ピア)を実施している。今年度も性感染症に関するピアの依頼があるなど、教育の場においても性感染症に関する正しい知識が求められていることがわかった。そのなかで、子供たちが楽しく、正しい性感染症の知識を身に付けられるものとして、このSTIカルタは有用であると考えている。

<p>事業実績</p>	<p>具体的な活動内容</p>	<p>7. SCORA総会～人生を「もっと」好きになるために～(2019年3月16日～17日、東京)  東京女子医科大学河田町キャンパスで行ったこのイベントではSCORAの一年間の活動を振り返り、来年度の発展につなげることを目指し、ワークショップや講演会などを実施した。気になるけれど大人数で話すことの少ない「性」の話題について一緒に考える時間となった。  具体的な内容としてスタッフのプレゼンテーション能力向上を目指すTrainingワークショップ、メディアや中学・高校などでも活躍されている産婦人科医の遠見才希子先生をお招きしてのご講演、スロベニアにて開催されたIFMSA世界総会の報告や、LGBT・ピル・月経などをテーマに参加者同士で学びを深めるワークショップなどを実施した。性感染症やその他性に関わる話題を多方面から考え話し合った。</p> <p>8. SCORAオンライン勉強会(全13回、オンライン)  IFMSA-Japan SCORAではスタッフ間の知識向上を目指してSkypeを用いたオンラインでの勉強会(SKypeer)を実施している。今年度はNPO法人PILCONIにて性に関する問題を相談できるチャットボットの開発を行っている中村葵先生をお招きしての講演会や、デートDV、アセクシャルなどをテーマにしたワークショップを実施した。</p>
-------------	-----------------	--

## 活動の様子

### ○第37回日本思春期学会総会・学術総会口頭発表(2018年8月16日、東京)



口頭発表の様子



発表後座長の先生とともに

### ○AIDS文化フォーラム名古屋トークセッション登壇・ブース出展(2018年9月2日、名古屋)



トークセッション



ブース出展

### ○STI総会(2018年10月6日、札幌)



STIカルタのアイデアを考えるワークショップ



集合写真



○世界エイズデーオンラインキャンペーン(2018年12月1日～5日、オンライン)



実際の投稿①



実際の投稿②

すべての投稿はこちらからご覧いただけます

[https://www.instagram.com/p/Bq1Va05B1Aw/?utm\\_source=ig\\_share\\_sheet&igshid=fu882sfeoyyq](https://www.instagram.com/p/Bq1Va05B1Aw/?utm_source=ig_share_sheet&igshid=fu882sfeoyyq)

○OSCORA総会～人生を「もっと」好きになるために～(2019年3月16日～17日、東京)



遠見才希子先生のご講演



参加者の様子